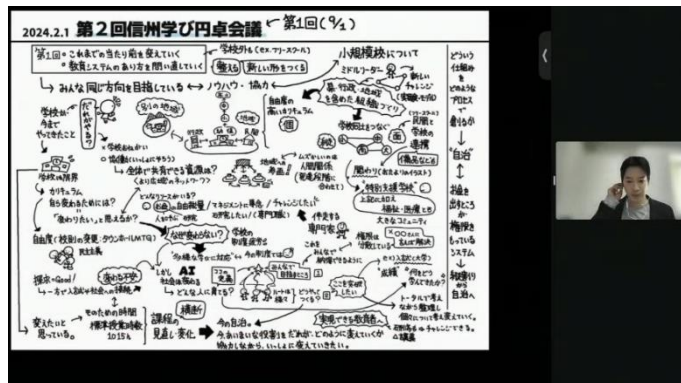


第2回信州学び円卓会議の概要

■概要

実施日程	令和6年2月1日(木) 13:00~15:00
場所	信濃教育会館 2階 講堂
出席者	・円卓会議委員12名(内オンライン1名) ※別紙「構成員名簿」のとおり ・阿部知事(オブザーバー)、内堀教育長(オブザーバー)
会の目的	・県民意見交換会の振り返り ・今後検討すべき方向性について議論

■当日の様子



■主な意見

- ・探究学習は入試や就職でどう評価されるのか心配があり、力を入れて取り組みにくい面がある
- ・今の仕組みで工夫できることはあるが、現場の先生が取り組むには学習内容が削減されても入試で問題無いなど、前提が無いと難しい面がある
- ・学校もしっかりと学習指導要領を読み込んでやっていくことは大事
- ・教科を超えてカリキュラムをつくっていくことも重要
- ・子どもが持つ興味関心や才能を發揮できる場を学校外含めてどう作っていくか
- ・地域の方と一緒に小規模校を作っていくことは大事
- ・学校が医療・福祉とも連携することで、子どもの力は伸びる
- ・経験のある先生、中堅・若手がお互いに支え合えるようなノウハウをつくるのが大事
- ・学校を束ねて相互につながる仕組みが必要
- ・小中高大の連携を推進する組織・仕組みがあるといい
- ・町・村立の小中学校で、お互いが持っている教育資源を交換する仕組みや教育委員会の広域化という形があってもいい
- ・地域を超えて、子ども同士がかかわる仕組みをつくる必要がある
- ・ある発達段階までは小規模で、ある発達段階では大人数だという風に工夫しないと、いつまでも子ども対大人という構造だけでは難しい

- ・学校の自治保障や教員の自由保障、中山間地域の学びの魅力化などを誰がやるか
- ・何かあると学校へという風潮があり、学校からすると「また何かやれというのか」という反応がある
- ・学校も県民も一緒にやっていきましょうという風に進めていけると良いのでは
- ・長野県の教員になるとやりたい事にチャレンジできるという風土をつくってほしい
- ・みんな同じ方向を向いているが、それでも不登校で苦しむ子どもがいて、必要な制度を整えていくことは必要
- ・誰もが学校は変わったほうがいいと思いつつ誰も踏み出せない
- ・プロジェクト・人材に自由裁量で出せるお金が大事だが学校は全然お金を持っていない
- ・挑戦しやすい環境作りが必要。今の少ないリソースでやるのは無理
- ・現在の教育制度は、均一な労働者を生み出すために作られた 100 年以上前のシステムがベースにあり問題
- ・先生たちも社会に出て学べるようになるといい
- ・全部一気に変えるのは難しいが、例えば、まず小規模校の学校のあり方を地域で実証しながら取り組んでいくと見えてくるものがあるのでは

■座長のまとめ

- ・学習するという観点から、文科省、教育委員会から適宜各施策の説明を入れながらお互いに理解をしながら進める
- ・地域が抱える課題をまずは中山間地域にフォーカスを当てながらパイロット的に取り組んでいく

信州学び円卓会議 構成員名簿

(50音順)

職 名	氏 名	備 考
信州大学教職支援センター准教授	荒井英治郎	座 長
軽井沢風越学園校長	岩瀬直樹	
飯田養護学校校長	浦野憲一郎	
根羽村長	大久保憲一	
(一財)白馬インターナショナルスクール代表理事	草本朋子	
長野県市町村教育委員会連絡協議会会長 長野市教育長職務代理者	近藤守	
NPO法人 Hug 代表	篠田阿依	オンライン 参加
山ノ内町教育長	竹内延彦	
(公社)信濃教育会会長	武田育夫	
松本県ヶ丘高校校長	徳永佳代	欠席
上田市立第五中学校校長	畠山正幸	
須坂市長	三木正夫	欠席
松本市立波田小学校校長	三輪千子	
信州大学教育学部学部長	村松浩幸	